

「慰安婦問題」にどう向き合うか
朴裕河氏の論著とその評価を素材に
研究集会記録集

発行：2016年6月27日

0328 集会実行委員会（金富子・外村大・中野敏男・西成彦・本橋哲也）

本記録集の内容および作成にかかわる説明

0、この記録集は2016年3月28日に開催された「研究集会『慰安婦問題』にどう向き合うか 朴裕河氏の論著とその評価を素材に」にかかわる資料をまとめたものである。

1、4～82ページは当日配布した資料集と同内容のものである。

このうち、13～56ページは当日の報告・コメントを行う登壇者より提出のあった資料である。枚数制限等は設けず、前日までに提出のあった原稿をそのまま掲載した（後述の岩崎稔のものを除く）。

57～82ページは、集会参加を呼びかけられた者（実際には参加しなかった者も含む）が提出した原稿である。これはA4判・2枚以内をPDFファイルで作成したもので、これについても実行委員会で内容の修正は加えていない。その配列は提出があった順番とした。

当日配布の資料集と本記録集では、次のような点で変更がある。

- 当日配布の資料集はA判で提出してもらった原稿の下部に通しのページ番号を入れ、それを2枚並べた上でB4判に縮小して両面したものとした。
- 当日配布の資料集は白黒印刷であった。
- 当日配布の資料集では、岩崎稔氏の原稿の部分は既発表の論文のコピーとしていたが、この資料集では当日、同氏が用意してきた読み上げ原稿を入れている。
- 64ページ上部に、原稿提出者の氏名を加えた（本人の申し出による）。

2、84～162ページは、当日の録音データをもとに発言を文字化したものである。

これは、録音データを起こした原稿について、各発言者に校正を依頼し、それをもとに実行委員会で最終的に確定した。したがって、文責は実行委員会のメンバーにある。

原稿確定にあたっては次のような点に留意し、若干の修正等を加えた。

- 原則として、当日の発言をそのまま文字化することとし、変更は誤解を招きかねない明らかな言い間違い等、最小限にとどめた。
- 発言中現れる、人名のうちでプライバシーを勘案して秘匿すべきと判断したものについては、その名前がわからないように修正を加えた。
- 当日は、フロアに着席している参加者がマイクを通さずに発言するといったことがあったが、これについては録音データが拾った音声で確認できるもののみを記録している。また、拍手や笑いについても議論の進行にかかわる重要なもののみを説明として入れるにとどめた。
- 発言の意味が通じやすくするための補足説明は〔 〕で示した。

3、164～246ページは、集会終了後に、参加者から募った参加記である。

司会・実行委員会メンバー以外の参加記はA4判・2枚以内をPDFファイル提出として募集を呼びかけ、提出があったものをそのまま掲載している。その配列は名前の読みの50音順とした。

司会からの原稿は特に文字数等の制限を設けなかった。配列は50音順とした。

実行委員の原稿は4000字以内とした。配列は50音順とした。

4、朴裕河氏自身の見解については本記録集には掲載されていない。

もともと、3月28日の研究集会には朴裕河氏の出席を要請しないことを実行委員会として確認していた。ただし記録集には、この集会、そこでの議論に対する朴氏の見解を何らかの形で掲載すべきであるという意見が一部の実行委員より出された。しかし、これについては反対が別の実行委員より述べられ、意見の一致を見ず、朴氏の見解の掲載は見送られた。